



いたる訪問看護ステーションの看護師たち。それぞれの専門性を活かし、多岐にわたる在宅看護のニーズに応えます



目次 contents

- 01 地域包括ケアに向け、訪問看護事業を推進
谷山哲浩理事長
- 02 いたる訪問看護ステーション、7月1日オープン
- 03 いたるセンター「虐待ゼロ宣言」～虐待防止委員会の取り組み～
- 04 話題の「生食パン」がついに完成しました！
2019年度第1回職員研修、5月18日開催！
2019年度事業計画の発表をはじめ、虐待防止研修等が行われました！
- 予告 -
イタル成城まつり、7月20日に開催！

地域包括ケアに向け、訪問看護事業を推進

社会福祉法人いたるセンター 理事長

谷山 哲浩

日頃は、社会福祉法人いたるセンターに多大なるご支援ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。皆様のご理解とご協力のおかげで、この度、法人の悲願であった「訪問看護」事業をスタートすることができました。あらためて感謝を申し上げます。

令和元年7月1日に開設した「いたる訪問看護ステーション」は、「ゆりかごから墓場まで」切れ目なく福祉サービスを提供することを目指してきた当法人にとって、その目標を達成する事業でありませぬ。母子ともに健やかな出産を迎えるための産前ケアから、自宅で安らかな最期の時を迎えるためのターミナルケア（看取り）まで、訪問看護ならではのきめこまやかなサービスを、全世代の皆様提供

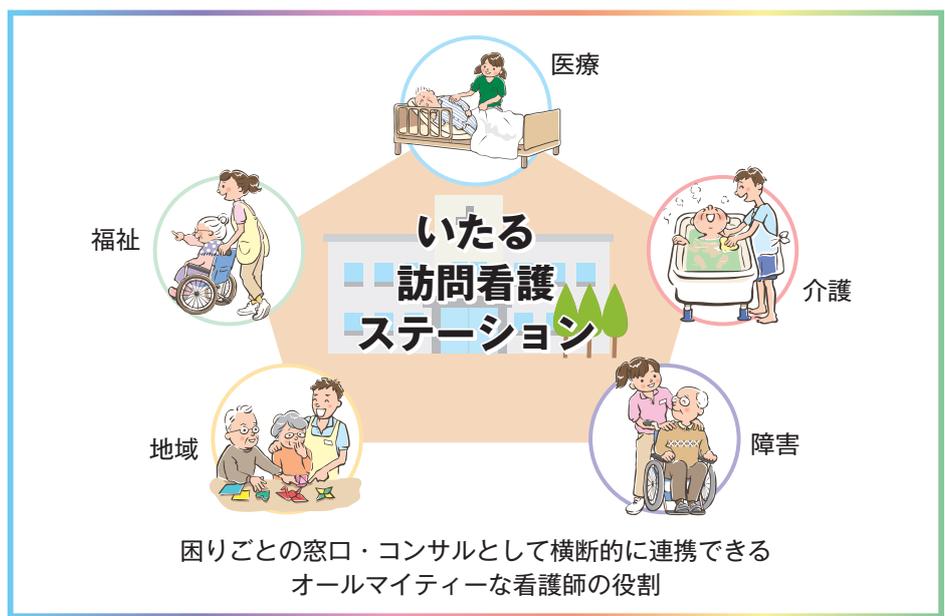
供でできるようになりました。話は変わりますが、いたるセンターの前身である「いたる学園」は、昭和40年に開設され、障害児の療育相談支援をスタートしました。以後、昭和42年より社会福祉法人として障害児者の介護・支援に邁進するなかで、「訪問看護」の必要性・重要性を強く実感してきました。そのため、重度化・高齢化するご利用者様とご家族の皆様の期待に応えるべく、一刻も早い事業開始に向けて準備を進めてきたのです。

「二人も取り残さない」地域福祉の確立を目指す上で、「いたる訪問看護ステーション」は、医療や介護、地域等との緊密な連携を図るきわめて重要な役割を果たします。このサービスが軌道に乗れば、理学療法士（PT）や作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）を加え、リハビリテーションについても、在宅で行なえるようにしていきます。新たにスタートする「いたる訪問看護ステーション」につきましても、ご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

いたる賛助会入会のご案内
「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。
年会費 1口5千円（何口でも可）
郵便振り込み 001107128992
（問）330927346 事務局 山本まで

はじめまして、いたる訪問看護ステーションの管理者の荒居哲也です。私はこの10年間、救急車で病院にいられた方や、病気が悪化して具合が悪くなった方をたくさん見てきました。その経験を活かし、地域で暮らしている方の力となり、誰一人取り残さない社会を目指し、すべての人がその人らしく生活できるよう、寄り添いながらケアしていきます。

いたる訪問看護ステーションの特徴は、「小児から高齢者、精神疾患や障害を持つすべての方に、どんな状況でも対応できる」ことです。さまざまな分野での看護経験を有する専門性の高い看護師たちが、みなさまの問題に向き合います。また、早朝や深夜など「24時間訪問対応」できる点も大きな特徴で、ご本人はもちろん、ご家族も安心して療養生活が送れるような、24時間体制の訪問看護を提供していきます。さらに、産前・産後ケアなど、同性看護をご希望の方にも対応できますので、安心です。



看護を取り巻くさまざまな分野との連携を図ることも、重要なミッションです

いたる訪問看護ステーションの看護内容

(対応エリア：杉並区・中野区・練馬区・世田谷区・三鷹市)

- ・病状の観察 (病気や障害の状態、血圧・体温・脈拍などのチェック、異常の早期発見)
- ・在宅療養のお世話 (身体の清拭、洗髪、入浴介助、食事や排泄などの介助・指導)
- ・薬の相談・指導 (薬の作用・副作用の説明、飲み方の指導、残薬の確認など)
- ・医師の指示による医療処置 (点滴、カテーテル管理、インシュリン注射など)
- ・ご家族等への介護支援・相談 (介護方法の助言。病気や介護の不安の相談など)
- ・在宅でのリハビリテーション (拘縮予防や機能の回復、嚥下機能訓練など)
- ・認知症・精神疾患のケア (利用者と家族の相談、対応方法の助言など)
- ・介護予防 (健康管理、低栄養や運動機能低下を防ぐアドバイスなど)
- ・医療機器の管理 (在宅酸素、人工呼吸器などの管理)
- ・床ずれ予防・処置 (床ずれ防止の工夫や指導、床ずれの手当て)
- ・産前・産後ケア (妊娠から出産後まで、母子の心身を守る支援)
- ・ターミナルケア (がん末期や終末期を自宅で過ごせるよう支援)

杉並区天沼の阿佐谷福祉工房・3階に開設される、「いたる訪問看護ステーション」。今回は、「何でも気軽に相談できる窓口になりたい」という荒居哲也看護師(管理者)に、オープンにあたっての抱負や事業の特徴について語ってもらいました。

いたる訪問看護ステーション

7月1日 OPEN

24時間対応

産前・産後ケアから看取りケアまで

プロフィール

荒居 哲也

平成元年3月28日生まれ。大阪生まれ千葉育ちの30歳。千葉市立青葉病院にて10年間勤務。ICU(集中治療室)病棟、整形外科病棟、救急外来を経て、社会福祉法人いたるセンターに入職。いたる訪問看護ステーション管理者。

資格：正看護師・呼吸療法認定士・BLS(二次救命処置)・ACLS(二次救命処置)・JPTREC(外傷病院前救護)・ICLS認定インストラクター・日本DMAT(災害時派遣医療チーム)隊員。

荒居哲也看護師

いたるセンター「虐待ゼロ宣言」

虐待防止委員会の取り組み

障害者虐待防止法、高齢者虐待防止法、児童虐待防止法など、多くの関連法が整備・改正され、あらゆる虐待をなくすための施策が積極的に進められています。当法人も「虐待ゼロ宣言」を掲げ、虐待防止に法人全体で真剣に取り組んでいます。

社会福祉法人いたるセンターでは、平成27年12月に「虐待防止委員会」を設置し、あつてはならないご利用者様への虐待を防止するための体制を整備してきました。具体的には、障害者および児童虐待防止法に基づく「虐待防止マニュアル」の作成、「虐待チェックリスト」による

自己チェックをはじめ、全体職員研修、リーダー研修、常勤職員研修、パートナー職員研修において虐待防止に関する教育を行いました。不適切な対応事例を含む事故報告や苦情相談の内容については、その要因やリスクを検討してきました。また、平成28年2月に「虐待ゼロ宣言」

を掲げ、法人全体で虐待防止の責務を果たすことを誓いました。

さらに、平成30年4月には、職員を対象に虐待防止の電話相談を行う「虐待ホットライン」を創設。上司や同僚に相談しにくい案件を拾いやすくし、法人内の虐待及び虐待未遂事案を未然に防ぐ体制も整えました。相談窓口は「りんどろ国際事務所」

《虐待ゼロ宣言》

私たちは、以下の虐待をしません。

1. 身体的虐待
2. 性的虐待
3. 心理的虐待
4. 放棄・放置
5. 経済的虐待

私たちは、「虐待ゼロ」社会の実現に向けて、以下のことに取り組みます。

「虐待をしない」

ご利用者の障がい特性を理解し、適切な支援を行うよう自己研鑽に努めます。障がい故にうまくできないことを「わがまま」、「やる気がない」で片付けよう障がい理解に努めます。

「虐待をさせない」

職員がストレスをため込まない職場環境づくりを目指します。

「虐待を見逃さない」

職員同士が切磋琢磨し合える、風通しの良い職場づくりを目指します。長所は認め合い、短所はアドバイスを素直に聞き入れ改善する職員関係を築き、不適切な支援は即座に改めます。

平成28年2月13日
社会福祉法人 いたるセンター
虐待防止委員会

すべての事業所に掲示し、虐待ゼロを目指しています

今後とも、虐待防止について、法人全体で真剣に取り組んでまいります。

虐待ホットラインの相談窓口

中條幸子氏プロフィール

埼玉県川越市生まれ。平成5年、米国テンプル大学日本校を首席卒業（政治学、歴史学）。平成5年より地方新聞において国際面、社会面の記事を中心に執筆。平成18年、(独)労働安全衛生研究所にて英語通訳、翻訳。平成21年、都内クリニックを皮切りに、公認心理師として、東京都、港区などでカウンセリングやメンタルの講演を行う。現在、社会保険労務士、公認心理師、通訳案内士として労働相談や企業のコンサルタントに従事。また、講演会、各種分野の執筆も展開している。



公認心理師の中條幸子さんが相談窓口です

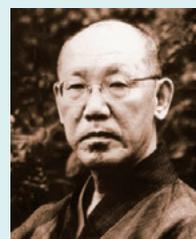
理事長の一言

「素行自得（そこう・じとく）」

安岡正篤先生の言葉

「意気地なく、或いは卑怯に、現実を逃避しないで、正直に、着実に、勇敢に、現在の境地に立脚して勇往邁進してゆくことを【素行】という。素行してはじめて人間は自己を把握することができる。これ【自得】である」（『東洋的志学』安岡正篤著）

また、安岡先生は、「現実を曖昧にした生活は妄想に過ぎず、とりとめのない感傷的気分や観念の遊戯に過ぎぬ明け暮れは、いたずらに自己を散漫にして、いわゆる【己を喪って】しまう」とも語っています。至誠至純に現実と向き合いながら進むことで、自らの「天命」の成就に向けてひたすら努力することが、人の生きる道なのです。



安岡正篤

ピックアップいたる

パン工房プクプクより、待望の新製品!



話題の「生食パン」がついに完成しました!



生食パンは1本(2斤)864円、1斤432円でご提供しています(消費税込)

多くのマスコミを賑わせており、行列ができる有名店舗などが紹介されている「生食パン」。パン工房プクプクでは、昨年9月からその開発に着手し、改良に改良を重ね、ついに「生食パン」を完成いたしました。北海道産の「四つ葉生クリーム」をはじめ、ハチミツ、練乳などをブレンドした新食感は、そのまま食べて美味しい味に仕上がっています。発売以来、生産が追いつかないほどの大人気です。南荻窪「パン工房プクプク」の店頭にてお買い求めくださいませ。

杉並区立保育園全国に、パン工房プクプクのパンが導入されました!

天然素材にこだわった、安全安心のパン作りが認められ、パン工房プクプクのパンが、杉並区立の保育園全国に納品されています。園児やご家族の皆様が高く評価され、少しずつ導入先が広がっていき、社会福祉法人いたるセンターの保育施設「ピヨピヨおうちえん」と「ピヨピヨおうちえん荻窪駅前」にも導入。食育の大切さを、パン作りを通じてお伝えしていきます。



2019年度第1回職員研修、5月18日開催!

2019年度事業計画の発表をはじめ、虐待防止研修等が行われました!



杉並区上井草の「あけぼの作業所」にて開催、155名の職員が参加しました

年間4回行なわれる全体職員研修、今回は、2019年度4月に入職した新入職員の紹介からスタートし、谷山哲浩理事長による「いたるセンター・事業方針」の解説、各事業部の事業計画要旨の発表、短期入所クローバーの「ロジカルシンキングを活用した職員育成プログラム」の事例研究、虐待防止委員会・阿久津庄司委員長の「虐待防止の取り組み」の発表が行なわれました。研修終了後は、懇親会が開かれ、事業部の枠を超えたコミュニケーションの輪が広がっていました。

いたる広報委員

発行責任者=谷山 哲浩
 社会福祉法人いたるセンター
 〒167-0032
 東京都杉並区天沼1-15-18
 TEL: 03-3392-7346
 FAX: 03-3391-8039
 Eメール: info@itarucenter.com
 HP: http://www.itarucenter.com/
 発行日/2019年7月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
 いたる広報委員まで。



イタル成城まつり、7月20日に開催!

社会福祉法人いたるセンターの通所施設の中で、今年最初のイベント「イタル成城まつり」が、7月20日(土)に開催されます。ご利用者の「アート活動」の作品の発表の機会として、展覧会「PLAIN ART 2019」も併催。ぜひ、お誘い合わせの上、お越しくださいませ。

会 期 | 2019年7月20日(土) 10:00~14:00
 会 場 | イタル成城
 場 所 | 東京都世田谷区成城8-27-11 (03-3415-6011)
 アクセス | 小田急線「成城学園前」駅 徒歩15分



今年もアートセッションを予定しています